

## 第五話<夢のニューヨーク>

—という訳で、とうとう憧れのニューヨーク、マンハッタン島へやってきたのだ！！  
その街の大きいこと…当時人口密度で世界一だった東京が世界で一番大きい街だと思っていたら、マンハッタン島の摩天楼はその二倍ほどもあろうかと思われるほどの規模でしかも建物のほとんどは歴史漂う石造り建築だった。

どこかで聞いた唄のフレーズだと思うが、セピア色の街…そう、セピアというイメージにぴったりの雰囲気にもまれていた。

わたしはその大きさと、色彩と、行き交う様々な人種の人々に圧倒されながらニューヨークの街並みを、酔い痴れながらさまよい歩きました。

ブロードウェイ、五番街、タイムズスクウェア、セントラルパーク、ダウントウン、裏通り…

ホテルに戻るとスタッフから[そんなところを一人で歩いて、よく無事だったね?』と言われ「ビルの裏通りは犯罪が多発している場所で観光客は特に狙われやすいのだから、絶対に通らないほうがいい」と注意されました。…しかしそう言われても、その危険性が理解できず相変わらず物珍しものを探して出歩いておりました。そのとき季節は11月の初めで、バミューダ一島ではまだ泳ぐことのできる気温だったのですが、ここニューヨークでは道行く人々がコートやジャケットを羽織っている時期でした。そんな中…短パン半そでにゴム草履の出で立ちのアジア人は、彼らにしても少し危険な臭いを帯びていたのかもしれない。

ニューヨーク滞在の一週間は瞬く間に過ぎてゆきました。

**『将来必ずまたここへ来よう。そのときは自費で、自分の仕事で来よう!』**

と、そう心に誓いました。